

第3回よさの地域デザイン会議（野田川地域） を開催しました

12月6日（月）野田川わーくばる多目的ホールで、「第3回よさの地域デザイン会議（野田川地域）」を開催しました。「よさの地域デザイン会議」とは、持続可能なまちづくりにおける公共サービス・公共施設のあり方について、住民の方々との対話により多彩なアイデアや提案を収集する場です。

第1回の「利用圏域」、第2回の「施設の集約、機能の複合化」に続いて、地域別会議としては最後となる今回のテーマは「担い手」。

過去2回にわたって意見交換し整理した内容と、加悦地域、岩滝地域を含むすべての地域のメンバーが一堂に会した全体会（11月21日開催）において、「まちに1つあったら良い公共サービス



（施設）のあり方」について出された意見を参考に、再度、グループごとに「利用圏域」、「施設の集約、機能の複合化」について意見を出し合ったあと、「A 行政で運営（直営）」、「B 民間や住民団体と協力（協働）」、「C 民間や町民団体に任せる（民間直営）」、「D その他」について意見を出し合いました。

グループごとに意見の整理をすることが本日のゴール。この日のほとんどの時間を対話に費やし、4グループともゴールにたどり着きました。

（参加者 住民 14人、町職員 8人、傍聴者 0人
ファシリテーター 一般社団法人 地域問題研究所 理事長 青山 公三 氏）

参加者のみなさまからの意見の一部を紹介します

Aグループ

- ◇役場は町の真ん中に一つにし、地区公民館やコンビニでも簡易な交付手続きができるように。
- ◇こども園や小学校は旧町単位に1つ。ただしスクールバスは必須。バス運営は民間で、コミバスに混乗するなど日中も無駄にならないような活用を。
- ◇学校の空き施設は、カフェや図書室、子育て支援センター等を兼ね備え、子どもから高齢者の居場所を確保しつつ、民間の力で自由に使ってもらっては。
- ◇公園やカフェの併設など、民間や地元の力で与謝野駅も居場所の一つに。
- ◇スポーツができる場所（グラウンド・体育館）は旧町単位で。学校の空き施設でグラウンドの活用はできても、体育館はサイズが小さいので兼ねられないのでは。
- ◇子どもに関することを一番手厚く、中心にして考えてほしい。
- ◇民間参入は活性化につながるので良い。

Bグループ

- ◇図書館を集約しても、乗合タクシーを活用した移動図書館で貸出・回収ができると遠方であっても利用しやすくなる。スーパーに移動図書館が来れば買い物のついでに利用することも可能に。
- ◇旧町区域で子どもの居場所を中心に集約を考える（子育て支援センター、こども園、小学校、グラウンド、体育館、高齢者の集う場）
- ◇1階はこども園、2階は体育館といった施設があってもいい、小学校の体育館やグラウンドは夜間は一般利用も多く民間に管理してもらったらどうか。
- ◇高齢者の集う場は小学校区でも必要だが、旧町区域でも必要なので拠点となる子どもの居場所と集約して交友を広げてはどうか。
- ◇他のグループで議論されていた駅を拠点に集約するのを取り入れてはどうか（駅、カフェ、高校生の地域活動拠点、公園）
- ◇文化や芸術の発表の場として規模の小さいものは公民館、規模の大きなものは全町域に一つ大規模集会場あったらいいのでは。
- ◇庁舎は一つに集約して、公民館に出張して窓口業務などをできるようにすればどうか。
- ◇野田川地域は地区公民館での活動が活発。地域の身近の拠点として集約できればもっと良くなる。
- ◇季節で場所を変える学童保育やキッズステーション（普段は学校の近く、夏休みなどは家の近くの公民館）、元気な高齢者世代も関わる、調理室を活用してお弁当作りをしたら学童保育にお弁当を持ってこなくてもよくなる。
- ◇公園を民間に管理してもらってグランピング（キャンプ）やイベントなどに活用してもらい利用者増加を図る。
- ◇サービスを維持していくことを考えると基本は民間に委託して、どうしても民間ではできない学校などは行政がするのがいいのでは。

Cグループ

- ◇利用圏域が近くに必要な施設の機能を充実させることで、施設の統廃合や集約が実施しやすくなる。施設の運営形態について、民間企業に介入してもらうとなると様々な工夫が必要。
- ◇音楽ホールや文化、芸能などは現在でも多目的施設として一体となっている。こういった施設は近隣施設に1つだけというような思い切った統合の方法も必要だと思う。大きく統合できれば利益も出やすいため、民間企業による運営も視野に入ってくるのではないか。
- ◇地区公民館等、防災拠点になり得る施設は近くに必要であるが、普段の利用者は多くないように思う。そのため、公民館を例えば行政窓口の出張所、図書館の貸し出し及び返却窓口等に利用することができれば、庁舎の一本化や図書館の統合に繋がると思う。
- ◇施設の運営形態について、民間企業による運営を実現することができればコスト削減にとってもメリットがあるが、与謝野町で収益化できる施設が思いつかず、行政から経営計画モデル等を提示できたとしてもなかなか前に進まない気がする。一方で、少しでも個人情報扱うような施設は行政運営としてほしい。

Dグループ

- ◇庁舎は1つでよい。
- ◇スーパーやコンビニ等、人が集う場所に行政窓口を置く。
- ◇高齢者関連の施設については、自ら出向くような場所については近くに、送迎を伴う施設については旧町区域でよい。
- ◇図書館は、受取り等の窓口を公民館に設置し、予約制により受付を行えばよいのでは。
- ◇保育・子育て関係の施設は近くにほしい。
- ◇小規模な公園は子育て世代のために近くにあってよい。
- ◇地域・NPOにより公民館を運営し、高齢者の活動や小規模な文化・芸術の場に。
- ◇スーパーやコンビニは人が集いやすいと考えられるが、地域によってはない所もあるため、それに限らず実態に沿った施設の活用ができればよい。
- ◇宮津市のミップルは市役所の一部やATM等、様々なサービスが複合しており、良い参考となっている。オガールを目標としながらミップル以上の施設ができれば。
- ◇若い世代の将来のための投資をすべき。

【会議の様子】



【感想】

- ◆意見を十分出せた。
- ◆みんなの意見が叶うわけじゃないことはよく分かった。
- ◆この様な自分の意見が言える場があって良かった。
- ◆他のグループについても一定同じ考えを持っておられると感じた。
- ◆町の情勢を考慮しながら複数回にわたり議論を行う中で、地域として全体的にまとまってきたのではないかなと思う。

問い合わせ先

よさの地域デザイン会議事務局（与謝野町企画財政課）

電話 0772-43-9015（直通） FAX 0772-46-2851

メール kikakuzaisei@town.yosano.lg.jp